

DEAR 教材「新型コロナウイルス感染症とわたしたち」ZOOM ワークショップ

日時：2020年5月29日午前9時50分～11時40分

参加：6名（全国4都府県）※SNSで募集（ホストを除く定員5名）、参加費無料

教材：開発教育協会（DEAR）※著作権

主催：アルマス・バイオコスモス研究所

1) 参加者の特徴

- ・全員ファシリテーター経験者、活動者。
- ・教育に関心が強い。
- ・人権、環境、教育、防災、まちづくり、その他、地域に根差した様々な活動をしている。

2) ワークショップ手法としてのふりかえり

<工夫した点>※順不同

人数制限（定員5名+ホスト）、参加のルールの確認、時間管理（タイマー）、ワークシートの事前選定&配布、意見を記録する用紙、チャットの記録、アイスブレイク（開始前の雑談）、挙手の合図統一、ミュート解除（全員）、進行管理について参加者の同意&アドバイス、発言後の承認&コメント、教材に関する著作権の事前周知

<難しかった点>

- ・模造紙ワーク、付箋ワーク等はせず、座談会形式で実施（これが悪いという意味ではない）。
- ・時間管理。※ただし、重要な部分は急がない。
- ・ふりかえりの時間が終了後の宿題のようになった（しかし、その方が丁寧に書けた）。

3) ワーク1「わたしの気持ち」10:10:11:00

<テキストにもとづき、15の言葉から一人3つずつ選んで、理由を説明>

① 「役に立ちたい」3名

- ・人の話を聞く機会が増えた。電話を受ける。聞いてほしい人が増えている。
- ・緊急物資など支援できることをした。
- ・子ども達がSOSを出せるしくみづくり（相談窓口のポスターを手づくりして街角に貼る）。
- ・子ども食堂の活動。
- ・何ができるんだろうと考える機会が増えた。

② 「励まされる」2名

- ・医療現場の人たちなど、懸命に努力を続けている。
- ・パトロールでまちを回っていると、声をかけられる（激励、感謝など）。

③ 「驚いた」2名

- ・人々の言動の変化。差別、攻撃。ストレスがたまっている。
- ・学生の困窮。政府の対応。自分が学生の頃は、バブル期だった。

④ 「怒っている」1名

- ・学校は、コロナ対策を学ぶ共同体になり得たはずなのに、その機会を逃した。
- ・対策を共有し得る集団の力を使おうとしなかった。
- ・徒歩圏の学校なら、危険度はそれほど高くない。一緒にやろうよ！という力を育てるべき。
- ・「～してはダメ」という禁止から入ってしまうと、リスクマネジメントを学ぶチャンスを逃す。
- ・市民力が育たない。保護を強めると、力は育たない。
- ・「ティーチャブルムーメント（教えに最適な瞬間）」を生かせない。

⑤ 「わけがわからない」1名

- ・学校からもらってくるプリントの山。どうしたらいいのかわからない量。

⑥ 「こわい」1名

- ・電車の中で、ちょっと咳き込んだ一人の人に向けられた周囲の視線と態度のおそろしさ。
- ・子ども達の孤立。

⑦ 「不安」1名

- ・いつまで続くの？先が見えない。学校はいつまで休校？
- ・女性センターでの相談、DVや離婚の増加。電話できる人はまだよい。
- ・児童相談所の相談件数は4割増加。

⑧ 「どうにもできない」1名

- ・閉塞感。ママ友達から聞くストレスの数々。

⑨ 「興奮している」1名

- ・かつてペストの時代に社会が変わったように、今回も社会変革につながるのではないが。

⑩ 「ありがたい」1名

- ・郵便配達の人など、お世話になっている人への感謝。

⑪ 「疲れた」1名

- ・子ども達に勉強させなきゃ、健康管理もしなくちゃ等。

4) ワーク2 「これからの世の中はどう変わる？どう変えたい？」11:00-11:35

*話し合いたいテーマ：経済・産業、情報メディア、教育・学校、他

①子どもがエージェント

- ・大人よりも、子どもの力。学ぶ力、行動する力。それが大人を動かす。
- ・地域を守ろうという気持ち、行動力。
- ・地球温暖化、気候変動の問題も同じ。子どもは自分達の未来に向かって真摯に学ぶ。

②人間らしく生きる

- ・どうすれば、人が人間らしくいられるのか、という問題。
- ・人間らしくとは、どういう意味か。
- ・熊が人間の住む場所に降りてくる、プラスチックごみ、温暖化、みんな共通する。

③経済を何で回していくか

- ・里山資本主義の考え方。
- ・地域貢献活動、百姓（いろんなことができる人）になる。
- ・消費するばかりでなく、一緒につくる、経験する。

- ・エキスパリー（経験にお金をかける。ディズニーのコンセプトの1つ）。経験経済。
- ・フィンドホーン（スコットランドにある世界最大のエコヴィレッジ）のLove in Action。
- ・埼玉県での民泊（ログハウスの掃除やメンテナンスを一緒に！）
- ・どういうものに投資するか（フェアトレード、SDGs）。

④社会が変わるチャンス（元に戻すのではない）

- ・リスクマネジメントは、今からでもできる。
- ・境界線を明確にする。距離を保ちながら、競争せずに協働する。
- ・競争せずに協働するために必要な境界線（例えば、クラス人数の適正化）。
- ・安心できる土台、そこに戻っていける安心。子どもたち主体で。今こそ！子どもの声を聴く。
- ・コミュニティの課題解決を子ども達主体で。

⑤政治のあり方、シティズンのあり方

- ・コロナを収める方法として、強いリーダー（強権的なリーダー）の方がよいのか、民主的な力を引き出すリーダーがよいのか。

⑥教育は土台

- ・できる子はできる、やれる。できない子をどうするのか。コロナになる前からの問題がさらに。
- ・グループ学習の意義。
- ・「正常性のバイアス」が働くと、自分にとって都合の悪い情報を過小評価してしまう。
- ・学力の差が大きい社会は、不安定になる。学力の高い国（ex. フィンランド）は、学力差をできるだけ作らない工夫をしている。

5) エンディング

※ふりかえりは、時間がとれなかったので、終了後に各自ホストへフィードバック→全員へ。

「感謝と祈りとお悔みを込めて」

- ・亡くなった方々への「お悔み」をどのように表現すればよいのか。
- ・お悔みとは・・・。「惜しむ」との違いは。
- ・何を「悔やむ」のか。何を残念だと思うのか。
- ・その想いを何にどう「つないで」いけばよいのか。

6) ふりかえりシートより（一部抜粋）

★心に残った言葉、心に残ったこと

- 「社会が変わるチャンス」、「リスクマネジメント教育は今からでもできる」
- 社会を「もとに戻す」ではなくて、「人が人間らしくあるためにどうすべきか」
- 社会の中で誰もがチャレンジできるための「安心できる場所」をどう作っていくか
- 人が人と、環境と、ウイルスと、どう共存していくか
- 新しい経済の在り方。経験型観光（ただ消費するのではなく、ともに創る、経験する、など）
- Love in Action(行動に愛を込める)
- 地域にもっと目を向ける

- 「怒り」「先が見えない」「不安に支配されない」「対策を共有する集団」
- 参加型で、直接ここにいる人の気持ちを聴き、知ること共感でき、自分の気持ちが膨らむ
- 怒りがあったり、迷いがあったり、次への希望があたり・・・それぞれの気持ちを聴いて、共感することは、自分自身の言動やからだを動かすエネルギーにもなる
- お悔やみはこれからも続いていくということ
- 教育格差の少ない社会がよい社会（フィンランド）
- 聞き役に徹する**さんの雰囲気

★話し合った結果、何が見えてきたか？

- 人の育ちようがありようが、命のバランスを保つのに必要であること
- 一言！やはり、参加型は意味がある！そして希望
- いろんな人と話し合ったりつなげてもらったりすることは、自分の力にもなるし、世界が広がる。これは、たくさん的人数でなくても十分成されることを実感
- まして、同じテーマで話し合っている中で、それぞれの地域や世代、具体的な立場や役割などが少し理解できる
- 教育の大切さ、今回一番最初に学校が休校になったことのおかしさ
- 答えのないことに自分たちで答えを出していく学習の場に学校はなっていない
- 教育は長期的投資なのに。日本の教育は、答えのわかっていることを教える場